

草津市立矢倉小学校通信 令和2年6月15日 NO.5



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

何気ないやりとりで仕組まれているもの

校長室に「がっこうたんけん」と称してやってきてくれた一年生。校長室には、不思議なもの、興味深いものがあるらしく、そこでのやりとりがおもしろい。「あ、金庫や。」「大きいなあ」「お金がどっさり入っているんやで。」「あ、これで先生らの給料払うんやで。」勝手な解釈をしたかと思うと、ずらりと並んだこれまでの校長先生たちの写真をみて、「ねえねえ、なんでたくさん写真が飾ってあるの?」と質問も出てくる。学年はじめの校長室では、毎年、こうした子どもたちに、金庫はお金だけではなく、大事なものをしまっておくもの、校長室には矢倉小学校が始まった時からの校長先生たちの写真があり、ずいぶん昔から学校があったということがわかるようになっているなどと説明している。

今年は、こんな場面があった。

「たくさん死んでる！」大変だと言わんばかりの発言で、その場はざわめき立った。聞けば、親せきの家に行ったとき、ご先祖様の遺影がずらりと並んでいたのが印象に残っていたからだという。そこで、これらの写真はこれまでこの矢倉小学校にお勤めされた校長先生たちの写真だと解説し、その話の最後に、たしかに亡くなった方もおられるけれど、今もお元気で活躍されている方も多いと付け足しもすることができた。

こうして校長室の簡単な紹介をし、せっかく来室してくれて、写真に気づいてくれたからということでも写真にちなんだクイズを出した。

「ここにたくさん校長先生の写真があります。この中で、一番古い校長先生、つまり、一番初めに矢倉小学校の校長先生になった人は、右はしの人でしょうか、左はしの人でしょうか。どちらでしょう。指をさしてごらん、せえの！」

みんなは一斉に右はしを指さした。と同時に、「あそこにショダイって書いてある」と叫ぶ子がいたかと思うと、「シロクロやし」と言い出す子など、そこらじゅうでありつた理由を並び立てるさわぎとなった。おそらく、子どもたちの中にはあいまいな理解であったがために、なんのことかわけがわからなかった子がいたかもしれない。

しかし、こうしたやりとりはとても大切なはたらきをもつ。やりとりを介して言葉の意味を整理し、確かな知識を身につけていけるからだ。今回のやりとりでいえば、「ショダイ」とはどういう意味なのか、「写真」はスマホの画面で見ただけでなく、印刷してあるものでも「写真」であること、モノクロは昔の代物で「クロシロ」と言わず「シロクロ」というきまりがあることなど、いくつもの意味情報が仕組まれていたのである。臨時休校のときのように一人でとりくむ学習、ちょうどテレビやラジオの語学番組を視聴し学習するようなものとの決定的な違いは、こうした何気ないやりとりにこそある。子どもたちが学校に帰ってきたなあ…と実感できるのは、そんな一瞬のざわめきに出くわし、仲間のことばをシャワーのように浴びることで豊かな言葉の使い手として育っていく場に立ち会うところにある…。

あらためて学びの姿とはどのようなものかと確かめさせてくれた子どもたちの来室だった。

校長 大林道範